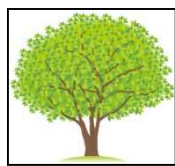


400年前の葛川の粘土で陶器づくり



活動場所	プレイルーム 実習棟	自然の家にあるもの	粘土、七輪、半ドラム缶、うちわ、あみ、火ばさみ、耐火レンガ
所要時間	4時間くらいが適当	利用者で用意するもの	軍手
人数	100名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン、帽子、軍手

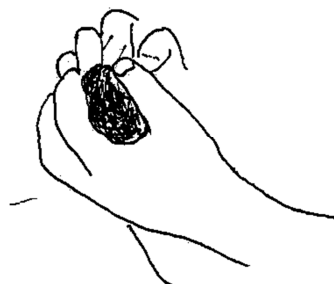
自然の家から歩いていける安曇川の川原で、400年前の粘土がとれます。その粘土を使って、箸置きや豆皿を4時間で作ってあげる活動です。作った作品をもちかえることができます。

また、この活動で、葛川の地理・歴史はもちろん、大地のつくりや滋賀県の産業の学習に結びつけることができます。

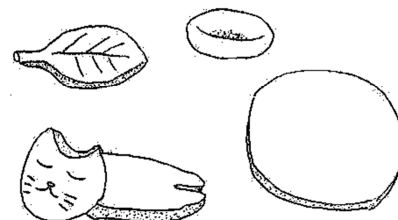
400年前の葛川のねん土でとうきづくり（野焼きバージョン）



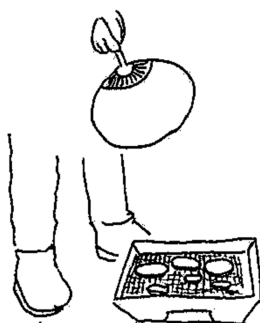
①あど川でとれたねん土とすなをまぜてよくこねます。



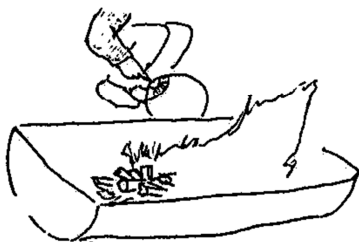
②自分の作りたい形にしていきます。



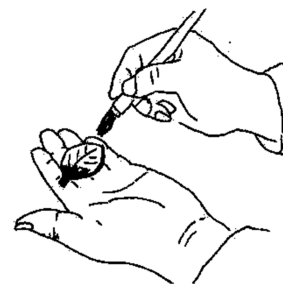
③はしおきや小さなおさらができたらおいておきましょう。



④③のできた作品をセリんの上におき、2時間かんそうさせます。ていねいにうちわであおぐと上手にかわきます。



⑤ドラムかんに火をおこし、15分したら④でかんそうさせた作品をいれます。1時間でやきあがります。



⑥作品がさめたことをかくにんしてから、しあげにニスや絵の具をぬることもできます。

とくに大切なこと

- ①おさらはあついかわきにくいので、あつき1cmくらいにしましょう。
- ②セリんでかんそうさせる時は時間が長いのでじゅん番をきめてうちわであおぎましょう。
- ③ドラムかんの中に作品を入れる時は、かならず火ばさみをつかって入れましょう。投げこんではいけません。
- ④やき上がった作品はとてもあついので先生が言うまでさわってはいけません。
- ⑤かんそう中や、焼いているときにとうきがわれてばくはつを起こすことがあります。作品に顔を近づけてのぞきこまないようにしましょう。

1. 学習内容（小学校）

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあることを理解すること。	理科	6年「土地のつくりと変化」
・滋賀県では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。	社会	4年「住みよいくらしをつくる」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・粘土の形成、乾燥、焼きあがりまで4時間を要するが、2日に分けたり、粘土を実際に川に行って採取したりすることもできる。
- ・野焼きはドラム缶を使って薪1束を要する。最大2班（12名）分の作品が焼ける。
- ・火を扱う活動であるため、予め児童に指導しておく。
- ・長袖、長ズボンが望ましい。ビニール・ナイロン素材の服は火の粉で穴があく恐れがある。綿素材の服を着用する。
- ・軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。
- ・途中で割れたりひびが入ったりすることがあるので、必ず2つ以上の作品を作らせておく。粘土をこねている時にできるひびや割れは、水をつけてくっつけるとよい。

イ) 活動中

- ・七輪で乾燥させるときは2時間かかるので、途中昼食時間をいれてもよい。
- ・乾燥中作品を裏返しにするときは軍手をするように指導する。
- ・ドラム缶に作品を入れる時、子どもたちでは心配な場合は指導者がいれても良い。
- ・焼きあがったすぐの作品はとても熱いので砂の上におき、十分冷めたことが確認できてから作品をさわよう指導する。
- ・乾燥させている時、焼いている時に作品が勢いよくはじける可能性があるため、顔を近づけないよう指導する。

ウ) 活動後

- ・焼きあがった作品に水性絵の具で色付をしたり、ニスをつけたりしてもよい。ニスは食用可のものにする。
- ・ドラム缶の残り薪は指導者が一輪車で回収し、実習棟裏の灰捨て場の穴にいれる。

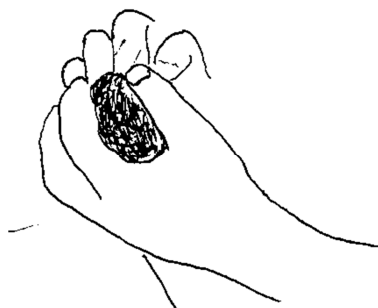
3. 安全対策について

--

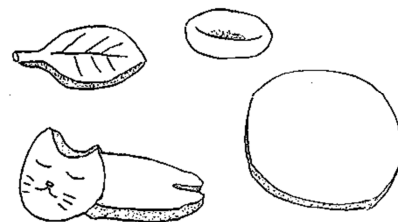
400年前の葛川の粘土ねんどでとうきづくり（焼き釜バージョン）



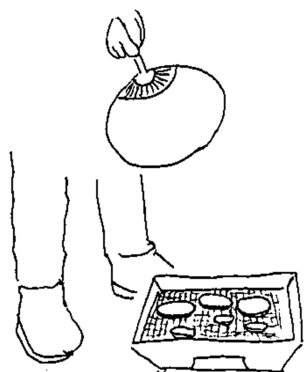
①安曇川でとれた粘土と砂をまぜてよくこねます。



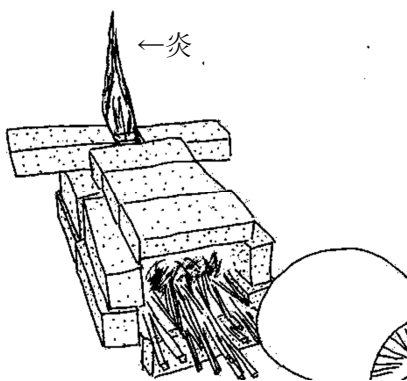
②自分の作りたい形にしていきます。



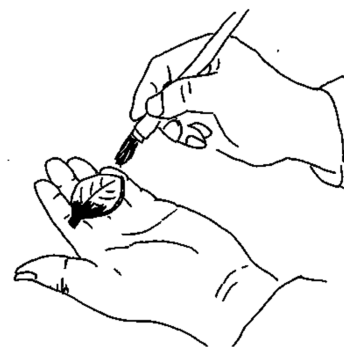
③はし置きや小さなお皿ができれば置いておきます。



④③でできた作品を七輪の上に置き、2時間乾燥させます。ていねいにうちわであおぐと上手に乾きます。



⑤レンガを組み、作品を入れます。火を起し、うちわであおぎ続けます。1時間火を強力に起こし続けたら焼き上がります。



⑥作品が冷めたことを確認してから、仕上げにニスや絵の具をぬることもできます。

とくに大切なこと

- ①お皿は厚いと乾きにくいので、厚さ1cmくらいにしましょう。
- ②七輪で乾燥させる時は時間が長いので順番を決めてうちわであおぎましょう。
- ③⑤の火力はレンガの穴から炎が吹き上がるくらい強めにします。そのためには班で協力してあおぎ続けましょう。炎が吹き上がる方には行きません。
- ④焼き上がった作品とレンガはとても熱いので、先生の指示が出るまでさわりません。

1. 学習内容（中学校）

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・流水のはたらきによっていろいろな地形ができることを理解する。 ・地表の岩石は風化によって土や砂になっていくこと、風や流水などによる侵食によって地表が変化することを理解する。	理科	第2分野 「地層の作り方」
・土や木などを味わいながら日常生活に活用できる工芸作品を制作・鑑賞することにより、自然材料のよさや美しさについて理解する。	美術	「材料を生かして」 －使う・飾る・遊ぶ－

ア) 活動前

- ・粘土の形成、乾燥、焼き上がりまで4時間を要するが、2日に分けたり、粘土を実際に川に行つて採取したりすることもできる。
- ・釉薬をつけるバージョンもあるので、打合せ時に相談すること。
- ・焼く時は薪1束を要する。最大2班（12名）分の作品が焼ける。
- ・火を扱う活動であるため、予め生徒に指導しておく。
- ・長袖、長ズボンが望ましい。ビニール・ナイロン素材の服は火の粉で穴が開く恐れがある。綿素材の服を着用する。
- ・軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。
- ・途中で割れたりひびが入ったりすることがあるので、必ず2つ以上の作品を作らせておく。粘土をこねている時にできるひびや割れは、水をつけてくっつけるとよい。

イ) 活動中

- ・七輪で乾燥させるときは2時間かかるので、途中昼食を入れてもよい。
- ・乾燥中作品を裏返しにするときは軍手をするように指導する。
- ・レンガの見本は提示してあるので、それをみて組み立てるように指導する。組み立ての際、火の吹く向きを考えて組み立てさせること。
- ・火力がとても高いので、十分に気を付けるよう生徒に指導する。
- ・焼き上がったすぐの作品はとても熱いので砂の上におき、十分冷めたことが確認できたら触るよう指導する。

ウ) 活動後

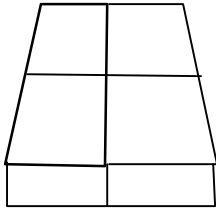
- ・焼きあがった作品に水性絵の具で色付をしたり、ニスをつけたりしてもよい。ニスは食用可のものにする。
- ・使用したレンガとても熱いので、すぐに片付けはしないこと。十分冷めたことが確認できたら、軍手をし、レンガを一人一個持ち、元の場所に戻すよう指導すること。

3. 安全対策について

--

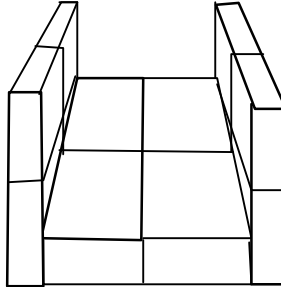
焼き釜^{がま}の作り方 (準備物：レンガ19個、小薪10本、薪1束、新聞紙1枚)

①



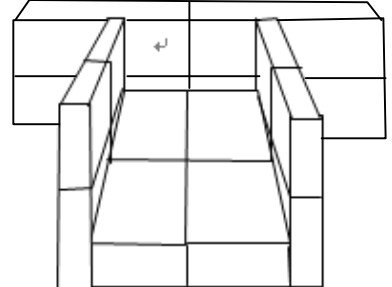
れんが4つを、図のように並べます。

②



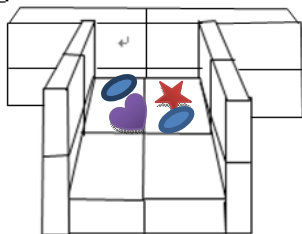
①で並べたレンガの両側に2列2段になるよう並べます。

③



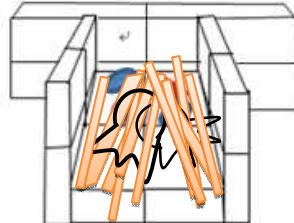
空気の通り道をふさぐように、向こう側にレンガを2列2段に並べます。

④



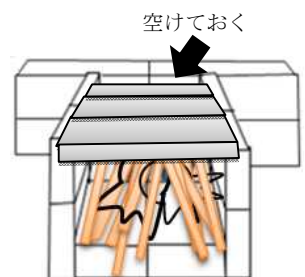
③でふさいでできた部屋の奥に作品を入れます。

⑤



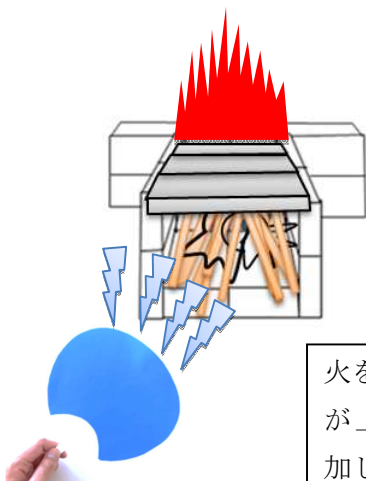
新聞紙のてるてるぼうず2つと小薪を10本入れます。

⑥



最後に手前からレンガを3つ並べ、ふたをします。奥は空気を通すために空けておきます。

⑦



火をつけて焼きます。火力が上がってきたら薪を追加していきましょう。